

# ヤフー株式会社

## 1. 会社の概要

- (1) 会 員 名：ヤフー株式会社
- (2) 所属部会：関東電気機器部会第2分科会
- (3) 資 本 金：8,037百万円(2013年3月末現在)  
従業員数：3,842名(2013年3月末現在)
- (4) 営業品目

インターネット上の広告事業、イーコマース事業、会員サービス事業、その他事業

- (5) 企業理念

当社はこれまで、日本のインターネット利用者の課題を少しでも多く解決することのできる、より良いサービスの提供を目指してまい進してきました。その思いは今も変わらず、今後も新たな「！」なサービスを生み出しながら、さまざまな重要課題の解決にインターネットの力を使って挑戦していく「課題解決エンジン」であり続けたいと思っています。

- (6) CIマーク



Yahoo! は1994年4月に、米国にてデビット・ファイロとジェリー・ヤンがスタンフォード大学博士課程在学中に、インターネットの個人的興味を記録する目的でサービス開始されました。その米国ヤフー・インクが、ポータルサイトの運営を開始する際、パソコンの画面上で映える「Yahoo!」のロゴをデザインしました。当社は、米国ヤフー・インクからのライセンスを受け、同社のYahoo!ブランドの世界的な統一戦略の一環として、「Yahoo! JAPAN」を企業口

ゴに定めています。

## 2. 知的財産部門の概要

### (1) 組織上の位置および名称

当社において、知的財産部門は、社長直轄の社長室・政策企画本部および法務本部に属します。政策企画本部は、インターネットに関わる政策的事項についての検討と立案、推進を行うとともに、コーポレート全体に関わる法的課題を取り扱う部門です。知財活動との関係では、知的財産戦略の立案、遂行および知的財産に関する政策企画に係る業務が、政策企画本部にて進められています。一方、法務本部は、カンパニーと密接な関係を持って、ビジネス遂行のサポートを行う部門であり、知財活動との関係では、特許出願・権利化等の業務を行っています。

### (2) 構成および人員

知的財産部門は、政策企画本部における知的財産戦略の立案、遂行および知的財産に関する政策企画に携わるチームならびに法務本部における特許部に分かれ、総勢15名の社員が所属しています。特許部は、主に、特許の発掘と出願、権利化、他社特許調査等の特許業務を行うチーム、意匠・商標の出願、権利化、調査等を行うチーム、特許等のデータベース管理を専門的に行うチーム、の3つから構成されています。

## 3. わが社の知的財産活動

### (1) 知的財産戦略

イノベーション創造を喚起しつつ、知財ポートフォリオの戦略的拡充をはかる一方で、知財リスクのミニマム化をはかることにより、当社

のビジネスの推進に貢献することを目的とした知的財産戦略を立案し、その実現に向けて活動を行っています。当社は、そのサービスが多岐にわたる事業領域に関連するだけでなく、IT（情報技術）の革新が急速に進んでいることを背景に、極めて動きの早い事業環境に属しています。このような2、3年先でさえも確実に予測することが難しい環境で、戦略的に活動を進めることは容易ではありませんが、他社の知財情報だけでなく、市場動向、技術トレンド、世界的なビジネス動向等も含めた多面的な調査分析を行いつつ、事業および研究開発戦略との連携をはかりながら、知的財産戦略を立案し、推進しています。

## (2) 知的財産に関わる政策企画

権利の保護と利用のバランスをはかることにより、文化・産業の発展に寄与するという知的財産権法の目的を達成するためには、技術の進展に照らし、法規制のあり方が適切なのかどうか、模索していく必要があります。特にインターネットを取り巻く法規制内容は技術の進展にあわせて手当がなされていると必ずしも言えず、そのためにインターネット利用者に技術的進展の恩恵を享受できるようなサービスを提供できないというような弊害が生じる場合があることも否定できません。このような観点から、公正かつ衡平なルールを追求し、インターネットの可能性を切り拓くことをそのビジョンとし、政策の立案、提案等の活動を進めています。

## (3) 特許出願・権利化活動

社内各カンパニーの開発部門および研究所等と緊密な関係をとって、戦略にもとづく活動注力テーマを中心に、発明の発掘、出願・権利化活動を行っています。特許担当者は、それぞれ担当する部門をもち、発明の発掘を行っています。部門側から発明報告書があがってくるのを待っているだけでは十分な権利化活動にはならないとの考えから、エンジニアから発明のポイ

ントを確認し、時にはサービスのアイデアについてブレインストーミングを行いながら、出願準備を進めています。

また、エンジニアが24時間で自由に開発し、出来上がったプロトタイプを発表する「Hack Day」と呼ばれるイベントが、世界のヤフーで共通に催されています。このイベントにて創出されるアイデアについても、権利化に向けた知財サポートが行われており、いち早く特許出願につなげています。

## (4) 意匠および商標

### ①意匠

スマートフォン、スマートデバイス時代を迎え、UI（User Interface）におけるデザインの重要性が増してきています。そのような観点から、サービスの画面のデザインについて、意匠登録出願を進めています。

### ②商標

Yahoo! JAPANでは、検索、オークション、ニュース、天気など多種多様なサービスが提供されています。これらのサービス名は、全社的なブランド管理、ネーミングの指針のもと決定され、商標登録出願が行われています。

## 4. 今後の課題（モチベーション向上施策）

職務発明規程において、特許出願や登録時等における従業員への報奨金の支払を定めていますが、特許発明のアイデア創出を喚起するための適切なインセンティブ制度となっているかについては、検討の余地があると考えています。

研究・開発のモチベーションを高めるため、例えば業績評価のあり方、表彰制度や社内認定資格制度等も含めた施策について、今後検討していくことを考えています。

（原稿受領日 2013年7月25日）